

■山本滝之助 社会運動家。立身出世すも地元離れられず、逆境青年の立場で青年団運動、結果として体制固めに寄与。

やまもとたきのすけ

明治6年政変 1873=

小田県沼隈郡草深村(広島県福山)で、山本孫次郎・サタの長男に生まれる。

真宗の盛んな風土のなか、

姉は養女に出、妹は夭折したため、一人っ子として、万人に優しい母の影響を強く受けて育ち、

琉球処分・・・1879= 6歳：草深小学校に入学。

明治14年政変 1881= 8歳：

新体詩抄・・・1882= 9歳：

秩父事件・・・1884=11歳：中等科に進み、

帝国大学始・・・1886=13歳：郡私立競進会三等賞となるなどして、卒業。

国民之友始・・・1887=14歳：中学進学を断念して、村の若者に仲間入り、出郷の望みは父から反対され、

初の対等条約 1888=15歳：戸長役場に就職、日記を書始める。若者仲間による雄弁会(信義会)に抛り所求めるも、止みがたく、

帝国憲法発布 1889=16歳：役場解雇。日本人で知った志賀重昂へ食客依頼するも、地元から小学校代用教員の職を斡旋され、

帝国議会始・・・1890=17歳：*地元に残る決意し、地域青年の教育談話会(好友会)を組織し、「青年会ノ起ラン事ヲ望ム」を書く。

大津事件・・・1891=18歳：小学校授業生の免許得て、松永尋常小学校に転任。この頃、眼病に悩む。肉筆雑誌(青年党)発行。

大本教・・・1892=19歳：松永尋常小学校準訓導に昇格し、常石尋常小学校準訓導。小学校教育のため一時中断した日記を再開、

郡司千島探検 1893=20歳：少年会設立意見を発表し、千年教育会提議。(少文林)へ「喫煙ノ利害得失」投稿し、

日清戦争始・・・1894=21歳：草鞋八百足を海軍へ献納。未成年者喫煙請願。(千年少年会)設立ほか、次々と構想。

日清戦争終・・・1895=22歳：前田正名の農会設立運動にも啓蒙され、青年団運動の原点となる「田舎青年」を執筆し、

白馬会・・・1896=23歳：結婚。自費出版のため、初めて大阪まで出る。新聞(日本)の五百木良三だけが好意的書評、

八幡製鉄始・・・1897=24歳：長男が死去。離婚。自ら逆境青年と意識し、郷土史に着目して、大日本郷土史編纂会と連絡したり、

子規句歌革新 1898=25歳：再婚。高崎正風の(彰善会)に加入し、哲学館講義録取りよせ勉強。「逆境青年」執筆。

Bushidou・・・1899=26歳：*(日本)紙面上の(日本)青年会を結成、さらに雑誌(日本青年)も創刊、

ビアノ国産化 1900=27歳：長男が誕生。正岡子規への見舞を提案。近衛篤磨らが(日本)青年会に関心、

田中正造直訴 1901=28歳：(伊那青年)へ投書。五百木の配慮でようやく上京が実現、石黒忠憲の知遇を得るが、

教科書疑獄 1902=29歳：帰郷を決意、広島県尋常小学校準教員免許とり、正式な教員となる。「東京見物」執筆。(沼隈時報)発刊。

日比谷公園 1903=30歳：次男が誕生。市来郡長へ若連中を話す。近衛篤磨のクラブ合併案。(千年村青年連合会)設立。

日露戦争始・・・1904=31歳：千年村若連中に日露戦争国債応募を提議。「(逆境青年改題)地方青年」出版。

日露戦争終・・・1905=32歳：長男が死去。尋常小学校本科正教員免許を取得し、常石尋常小学校訓導兼校長。*芳川内相一行が県下を視

察中、知事、井上友一書記官に面会し、青年団の実情と育成の必要性を提言。初めて地方代表として国家機

関たる聯合教育会で「若連中」改善の演説、以後、内務省・文部省による地方青年団育成に関与して行く。

満鉄発足・・・1906=33歳：三男が誕生。全国地方青年団体概況官報掲載。少女らの晩学のため(千年村処女会)設立。

韓国反日暴動 1907=34歳：聯合教育会に「青年団中央機関設置」提出するも否決。陸羯南死去し、(日本)青年会終る。

アヲキヲ創刊・・・1908=35歳：「常識カルタ」発行。報徳会講演会や万国基督教青年会大会に出席するなど、運動を広げ、

伊藤博文暗殺 1909=36歳：沼隈郡青年大会が(大阪朝日新聞)で論説され、「地方青年団体」を出版して、小松原文相から礼状が来るな

で、全国に名が知られるようになり、

韓国併合・・・1910=37歳：四男が誕生。小学校を休職、郡立実業補習巡迴講師嘱託。山崎延吉と名古屋で初めて全国青年大会開催。

大逆事件判決 1911=38歳：郡立実業補習訓導兼校長。「(良民)」発刊。その後も、しばしば上京して関係機関や各界の名士と接触し、青

年団の組織化や育成への協力を要請。折から地方改良運動に着手していた政府当局や中央報徳会が、当運動

の一環として青年団対策を位置づけ、結果として、青年団の体制化を促す契機にもなり、

明治天皇没・・・1912=39歳：「広告により無料で続けた(沼隈時報改め)吉備時報」は終刊。文部省より青年団体に関する調査委員嘱託。

大正政変・・・1913=40歳：「一日一善」出版、平易な修養方法としてヒットし、以後毎年版を重ねて行く。

第一次大戦始 1914=41歳：以後5年「一日一善日記」出版。鉄道青年会で講話開始。

21ヶ条要求 1915=42歳：「着手の個所」出版。田沢義鋪・後藤静香・蓮沼門三ら青年団に影響ある指導者の知遇を得て一段と飛躍、

民本主義・・・1916=43歳：帝国在郷軍人会事務嘱託。「(町村自治要義)印刷。実践一日一善講話」出版。

ロシア革命 1917=44歳：広島県青年教育部委員。「模範日」出版。

本格政党内閣 1918=45歳：「早起」出版。ついに第一回全国青年団連合大会開催。広島県連合青年団大会で感謝状贈られ、

ベルサイユ条約 1919=46歳：(良民)終刊。「団体訓練」出版。実業補習教育調査嘱託(文部省)。「一夜講習」提唱。

原敬首相暗殺 1921=48歳：「少年団研究」出版。郡立実業補習学校を退職後は、青年団運動からは一步身を引いた形で、帝国在郷軍人

会本部、郡社会事業講師、県社会教育事務などの嘱託として、各種の社会教育に従事、

関東大震災・・・1923=50歳：「処女会の育成」出版。

護憲三派圧勝 1924=51歳：宮内省より表彰。田舎青年ネットワーク化を図るべく巡回青年講習所を始め、(青年の天地)発刊、

治安維持法 1925=52歳：父が死去。「幹部の修養」「親と月夜」出版。この年、日本青年館が開館。

円本時代始 1926=53歳：「我家の愛語」出版。日本青年館事務嘱託。

金融恐慌・・・1927=54歳：融和事業委員会県委員会委員嘱託。

共産党事件 1928=55歳：大日本連合青年団事務取扱嘱託。田中義一より奨励状。勲六等瑞宝章。再び日記をつけ始めるも、

世界恐慌・・・1929=56歳：*歯痛より骨膜炎を併発して入院し、

海軍軍縮条約 1930=57歳：日記も巡回青年講習所も中止。文部大臣・広島県知事から表彰、(功労顕彰会)(頌徳会)も組織され、

満州事変・・・1931=58歳：日本青年館における胸像除幕式後、没した。